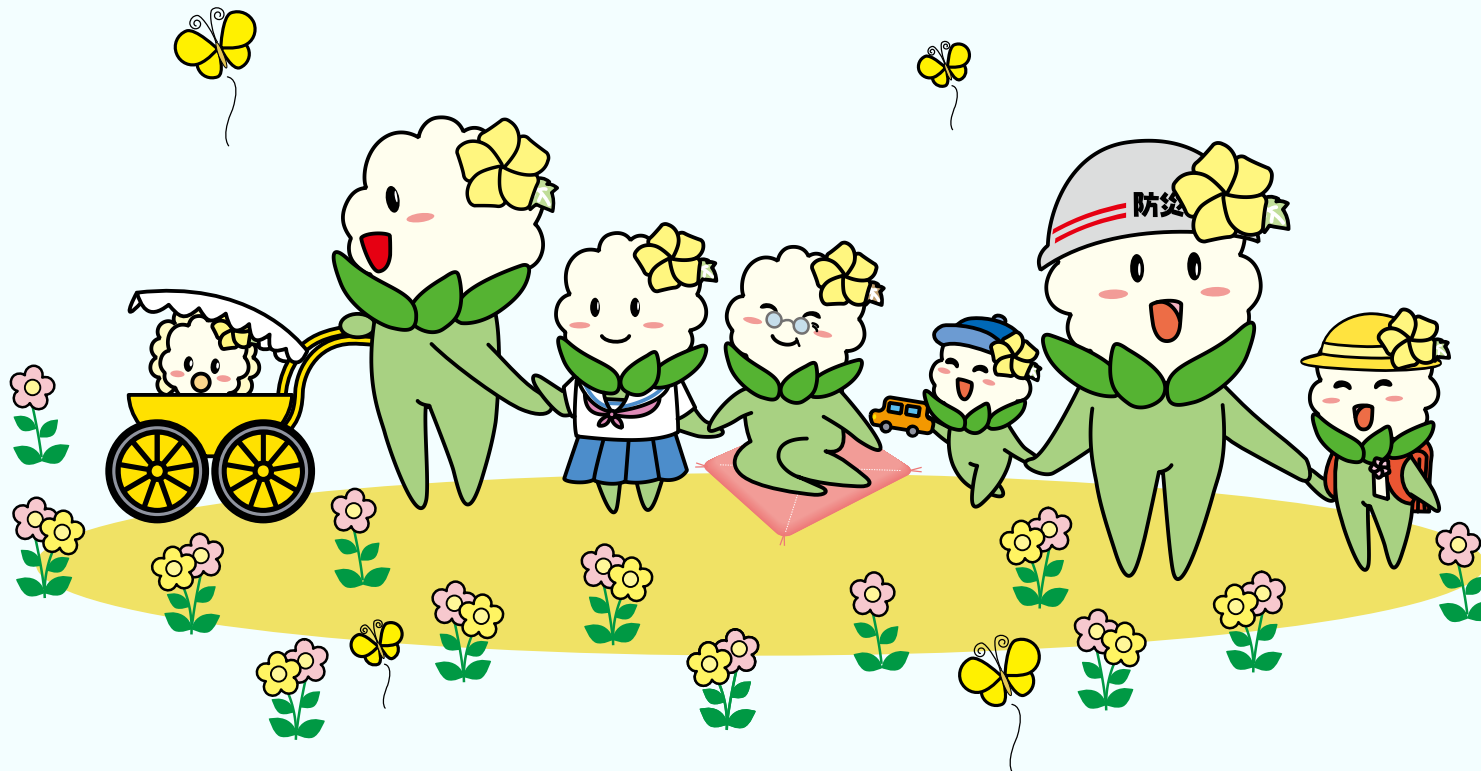


平野区将来ビジョン



平野区マスコット
キャラクター
「ひらちゃん」

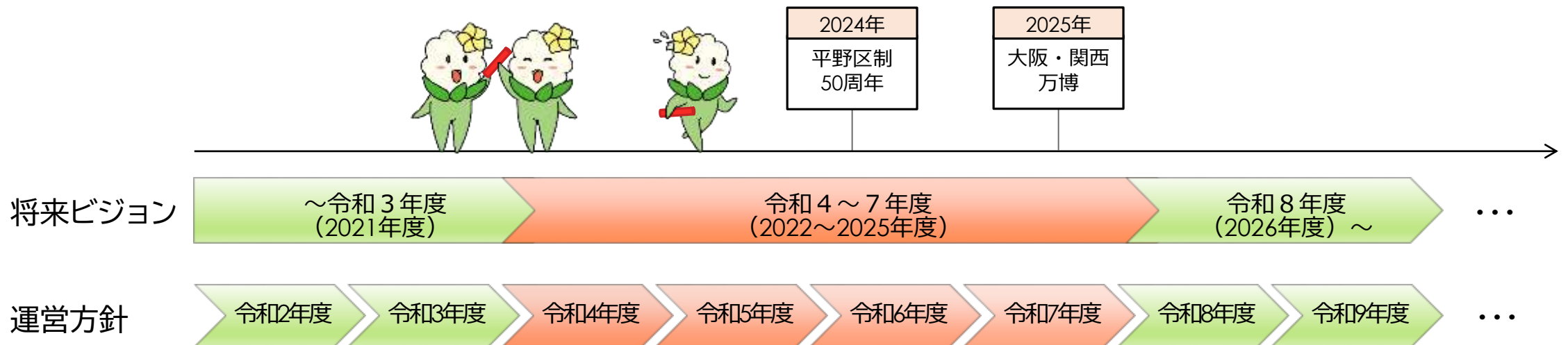
“笑顔輝くまち ひらの” をめざして



はじめに

平野区将来ビジョンは、令和4年から令和7年までの概ね4年間を見据え、平野区の基礎自治行政を総合的に推進していくうえで、地域としての区のめざすべき将来像、将来像の実現に向けた施策（まちづくり）の推進の方向性等をとりまとめたものです。

これまで進めてきた取組を継続していくとともに今後の施策を進めるにあたり、施策間の連携を強化していくことを主眼とした、現行ビジョンからのアップデート（更新）を行いました。



運営方針は将来ビジョンの年度ごとのアクションプランとして毎年度策定します。

また、運営方針における施策・事業のPDCAサイクルを通じ、将来ビジョンを適切な方法で進捗管理します。

目次

1	平野区の概要	4
2	平野区が抱える課題	5
3	平野区のめざす将来像	6
4	将来像の実現に向けた施策（まちづくり）の方向性	7
4-1	安全・安心のまちづくり	8
4-2	みんなで支えあう福祉のまちづくり	10
4-3	こどもが元気で育つまちづくり	12
	・ 施策の進め方（考え方）	14
	・ 施策間の連携強化	15
	おわりに	16
	参考データ	17

1 平野区の概要

面積：15.28km²

人口：192,152人

世帯数：92,872世帯

高齢化率：27.8%

(令和2年度国勢調査)

- 平野区は大阪市の東南部に位置し、東は八尾市、西は東住吉区、南は松原市、北は生野区及び東大阪市に接しています。
- 全般的には住居地域としての色合いが強いものの、南部には公営住宅や中高層住宅が建つ比較的新しい町並みの中に農地や遺跡が存在し、中央部は古い家々や神社・仏閣があり、北部には工業地域としての性格を有するバラエティーに富んだまちです。



2 平野区が抱える課題

多岐にわたる課題が山積しているとともに、
様々な分野で課題が絡み合い複雑化・複合化しています。

巧妙な手口の
特殊詐欺が
発生している

地域活動の
担い手が
不足・減少している

地域とつながりのない
孤立化した高齢者が
増加している

いじめや不登校が
増加している

子育て世帯への
情報が十分に
行き届いていない

大阪市内で
一番多く未利用地が
残っている

災害時の避難体制が
確立していない

高齢者や障がい者・
児童への虐待が
増加している

など



3 平野区のめざす将来像



笑顔輝くまち ひらの



あらゆるつながりを大切にした取組をすすめることで、平野区につながるすべての人、一人ひとりが尊重されるとともに、笑顔で暮らしやすいまちをめざします。

SDGs(エスディーゼズ)とは「Sustainable Development Goals」の略称で、国際社会全体の17の開発目標です。

万博開催都市である大阪はSDGsの実現に貢献していくことが求められており、府民や府内企業・団体など、あらゆるステークホルダーにSDGsを知ってもらい、自分事化していただくため、大阪府において「大阪SDGs行動憲章」が策定されました。

大阪市におけるSDGsの達成に向けた取組の推進に繋げるため、平野区でも、地域・関係機関等とも連携を行い、「持続可能な開発目標（SDGs）の観点も踏まえ事業に取り組みます。

※SDGsの詳細は[平野区ホームページ](#)をご参照ください。



大阪SDGs行動憲章





わたしたちは、「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」をめざす“持続可能な開発のための2030アジェンダ”（SDGs）の理念に賛同し、2025年大阪・関西万博の地元都市として、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に向けて、SDGsの17ゴールの達成をめざします。

1. かけがえのない“いのち”を大切に、地域社会や環境に配慮して行動します。
2. 2030年に住みたい魅力あふれる大阪をイメージし、できることから意識して行動します。
3. 人と人との出会い、つながりを大事にしなが、互いに学びあい協力して行動します。

4 将来像の実現に向けた施策（まちづくり）の方向性

平野区の課題を解消し、めざす将来像である「笑顔輝くまち ひらの」を実現するために、主に次の3つの方向性（柱）で施策を推進してまいります。



笑顔輝くまち ひらの

安全・安心の
まちづくり

みんなで支えあう
福祉のまちづくり

こどもが元気で
育つまちづくり

4-1 安全・安心のまちづくり

めざす まちの姿

誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまち

課題と求められる対応策

- ▶ 近年、多発する自然災害により甚大な被害が発生し、高齢者や障がいのある人など、自力避難が難しい要支援者のための個別避難計画の策定が求められています。
- ▶ 街頭犯罪発生件数は減少傾向にあるものの、特殊詐欺や子どもを狙った犯罪が多様化しています。
- ▶ 町会・自治会等への加入率が低下し、急激に高齢化が進展する中で、地域コミュニティの維持が困難になってきていることや、若い世代の地域活動への参加が希薄となっていることなど、地域コミュニティ基盤が弱体化しています。
- ▶ まちの魅力を高めることは、平野区に愛着を持って住み続けたいと思う動機づけともなることから、各地域の特色ある魅力を多くの方に知っていただき、次世代に継承していくとともに、区民のニーズに沿った魅力あるまちづくりを推進する必要があります。

安全・安心なまちに向けて・・・

近い将来に想定される大規模地震や水害などの自然災害への備え・多様化する犯罪への対応に向け、日頃から顔の見える関係を構築し、**地域コミュニティの強化**を図る必要があります。

⇒具体的には・・・

- ▶ 地域住民が防災に高い関心を持てるよう、防災リーダーが中心となり、消防とも協力しながら地域における自主防災組織による主体的な取組を支援することで、**防災意識の普及啓発**に努めます。
- ▶ **地域住民との協働や警察との連携**によって、より安全で安心なまちづくりを推進します。
- ▶ さまざまな人が**地域活動に参加**し、地域団体間での連携・協働が行われ、地域と行政が協働しながら地域課題の解決に取り組みます。
- ▶ 区民ニーズ等を踏まえた**未利用地の有効活用**の方向性に基づき、まちの魅力の向上に取り組みます。



4-2 みんなで支えあう福祉のまちづくり

めざす
まちの姿

すべての人がお互いを尊重しつつ、つながり、支えあえるまち

課題と求められる対応策

- ▶ 平野区では、4人に1人が65歳以上の高齢者と高齢化が進み、また、要介護（要支援）認定者数・障がい者手帳所持者数はともに15,000人以上となっています。このようなこともひとつの要因となり、当区では特に高齢者や支援を要する区民が多く、今後も増加が見込まれます。
- ▶ 増加していく高齢者には必要とする支援や健康増進、いきがいづくりなどが課題で、地域コミュニティの維持には、高齢者が地域活動に参画できる環境づくりを進めて、高齢単身者などの孤立化を防ぐことも重要な課題としてあげられます。
- ▶ 認知症や障がいなどがあり、支援を必要としている方の早期発見や早期支援に努めるとともに、認知症や障がいのある人などへの正しい理解を促進する必要があります。

みんなで支えあうまちに向けて・・・

支援が必要な人が孤立することがないように、「発見」「見守り」「支える」ための取組を実施し、**すべての人と人が支えあえる**関係性を築く必要があります。

⇒具体的には・・・

- ▶ 区民がつながり支えあい、住んでいる地域で健やかでいきいきと暮らせるよう、地域の実情に応じた**地域支援体制**が有効に機能し、認知症や障がいがある人などのさまざまな状況に対する理解を深めることができるよう努めます。



4-3 こどもが元気で育つまちづくり

めざす
まちの姿

こどもたちが家庭・学校・地域で生まれ健やかに成長し、
次の世代を担っていくことができるまち

課題と求められる対応策

- ▶ こどもの学力・体力の低下や不登校、SNSを使った新たないじめ、事件等が増えています。
- ▶ 教育力の低下や子育てに不安や悩みを持つ保護者が増加しています。また、こどもの放置（ネグレクト）や虐待、さらにはヤングケアラー※等の問題を抱える要支援家庭も増加しています。
- ▶ 若い世代が安心してこどもを産み育てることができる環境づくりや、こどもが家庭や学校をはじめ広く地域の人々とふれあい、様々な体験を通して健やかに成長し、社会・地域に貢献する次世代へつなぐ人材を育成する必要があります。

※「ヤングケアラー」とは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども（国プロジェクトチーム会議資料より）」とされています。

こどもが元気なまちに向けて・・・

全てのこどもが適切な環境で養育され、こどもが「生きる力」を身につけ、自ら大人や友達と関わりを持ち育つことで、自分らしくいきいきと成長していけるよう、地域ぐるみ（社会全体）で支えていく必要があります。

⇒具体的には・・・

- ▶ こどもたちの健やかな育みを支えるため、**妊娠期から子育て期、こどもの社会的自立までの切れ目ない支援**を進めます。
- ▶ 子育ての不安や悩みのある方が相談しやすいよう取り組むとともに、児童虐待を未然に防ぎ、深刻化させないための対策をより一層強化します。
- ▶ 基礎学力の向上、読書習慣及び家庭学習・生活習慣の定着に向け、総合的なこどもたちの学びの支援に取り組みます。



施策の進め方（考え方）

つなげる ひらの

現行の将来ビジョンや地域福祉計画、町会・自治会加入促進においても「つながり」の大切さがうたわれているように、これまで以上に「つながり」は重要性を増してきています。

家族や隣近所の方とだけでなく、地域内の方、各地域と区役所など、あらゆるつながりを大切にすることで、「平野区を笑顔で暮らしやすいまち」にできると考えています。

多岐にわたり、かつ複雑化・複合化する平野区の課題に対する解決に向け、「**つなげる ひらの**」をコンセプトとして、区役所が一丸となって、3本柱の施策を有機的につなげ、各施策間の連携・協働の促進を図ることを基本的な進め方とします。

「つなげる ひらの」には、

- ・ 多岐にわたり、かつ複合化・複雑化する課題に対し、異なる分野の施策・取組を連携・協働し（つなげ）ながら解決に導く
- ・ これまで培ってきた地域や区役所での様々な取組を「次世代につなげる（継承する）」
- ・ 区役所が各種取組等を通じて、『主体的に平野区の様々なつながりを醸成していく』

などの意味を込めています。

施策間の連携強化

「笑顔輝くまち ひらの」の実現に向け、多岐にわたり、かつ複雑化・複合化する平野区の課題を解決するためには、「つながり」のもとに、すべての人が積極的に関わり協力しあうとともに、施策間の連携を強化していくことが大切です。

施策(取組分野)間の連携例

<防災×福祉>

- ・高齢・障がいのある方への避難支援

<福祉×子ども>

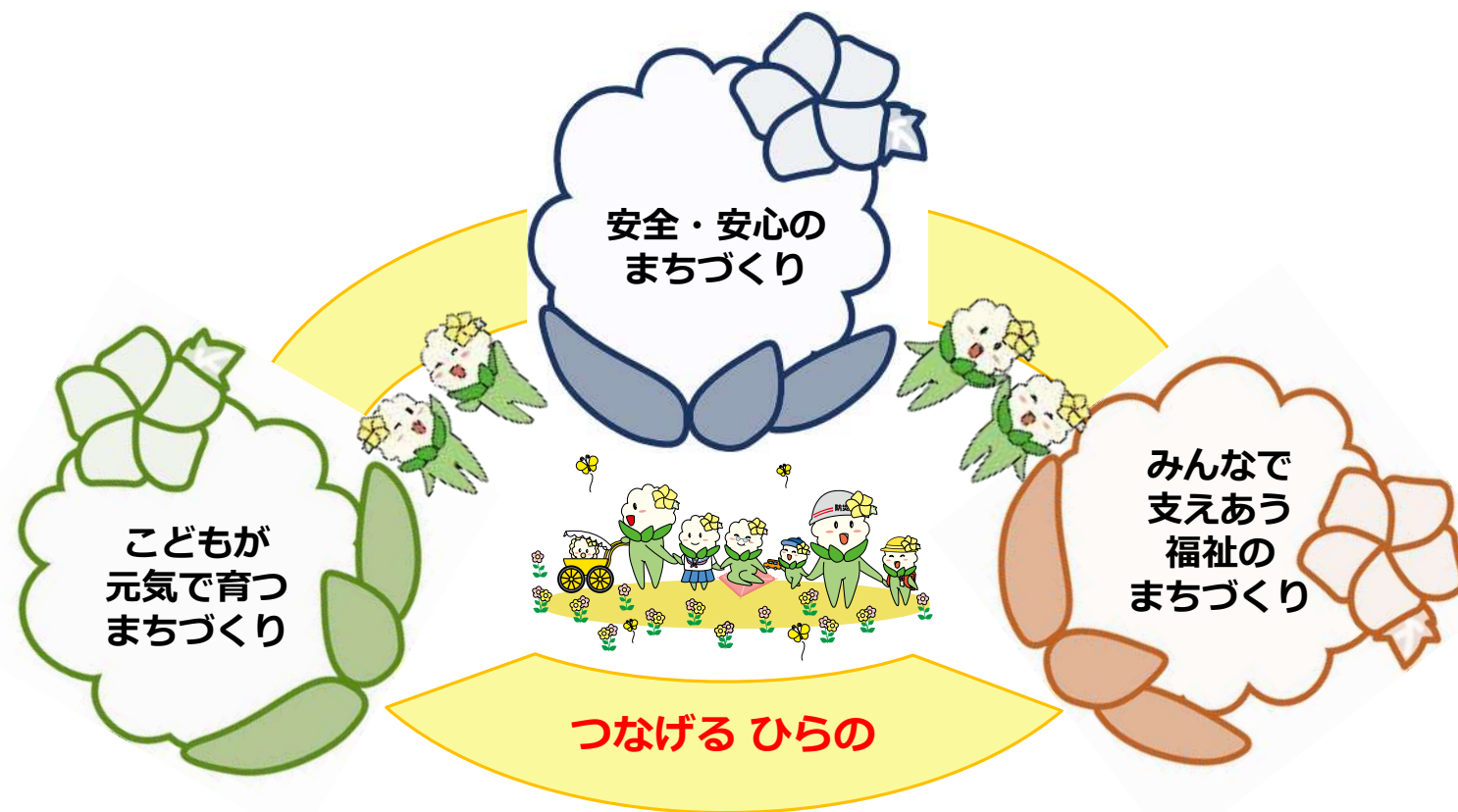
- ・児童虐待などの早期発見・支援

<地域活動×子ども>

- ・地域の方々による登下校時の見守り

<地域魅力×福祉×子ども>

- ・次世代につなぐ魅力あるまちづくり
(ソフト面・ハード面ともに)



おわりに

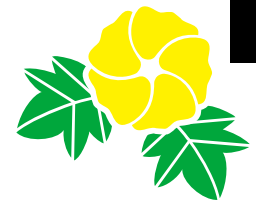
新型コロナウイルス感染症の影響により、わたしたちを取り巻く状況は大きく変化し、暗い話題が続きました。

平野区将来ビジョンには、平野区につながるすべての皆様がコロナ禍に負けず、一人ひとりが尊重され、明るく笑顔で暮らせるまちづくり、「笑顔輝くまちひらの」という思いを込めました。

地域のニーズや課題などに迅速に対応できるよう、「つなげる ひらの」を区政の推進のコンセプトに地域や各関係機関等、多くの皆様とのつながりを大切にしながら、めざす将来像の実現に向けて着実に取組を進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

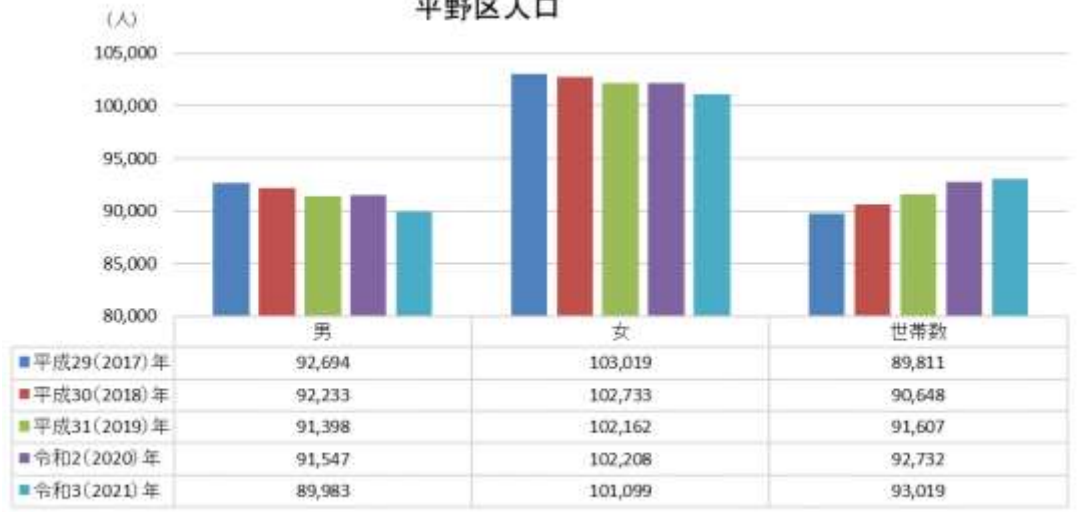
平野区長 武市佳代





【参考データ】

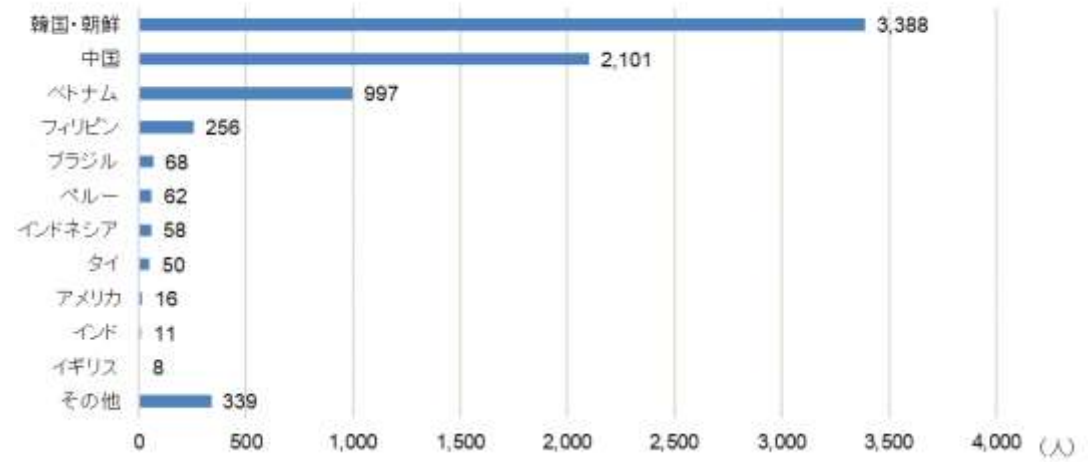
平野区人口



※各年4月1日人口

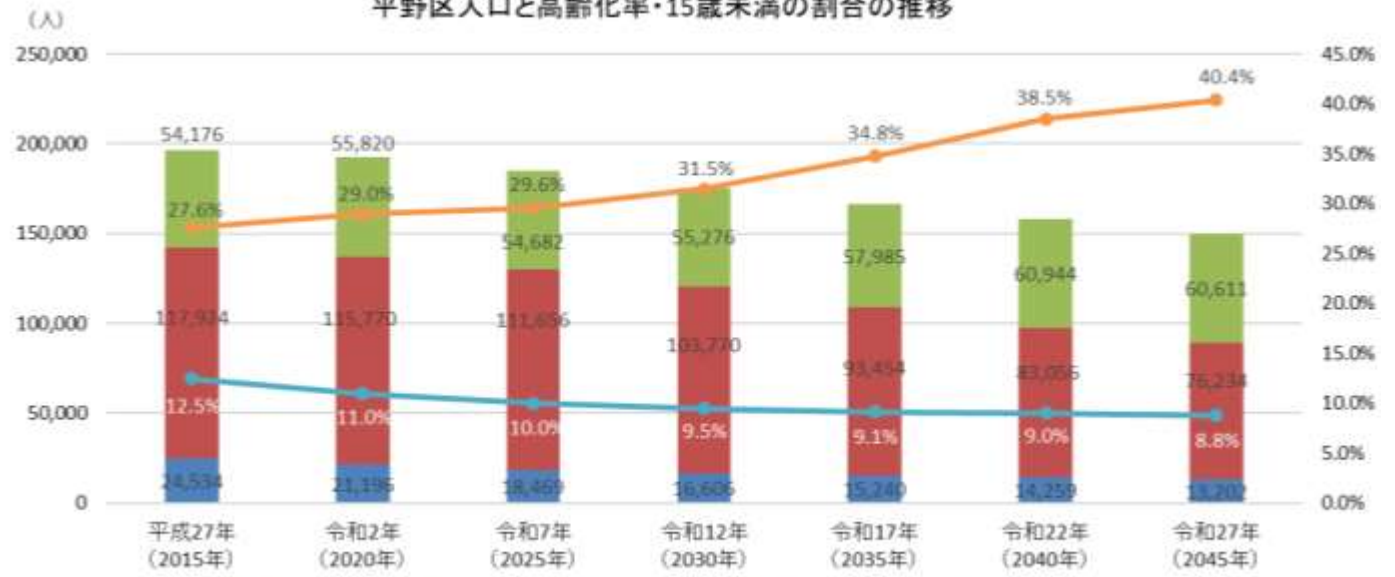
【出典：市民局（住民基本台帳人口・外国人登録人口）】

平野区 外国人住民数(国籍別)

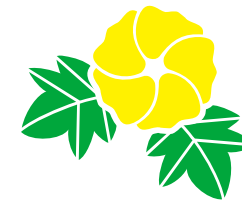


【出典：令和2年国勢調査】

平野区人口と高齢化率・15歳未満の割合の推移



【出典：政策企画室】



【参考データ】

① 安全・安心のまちづくり

項目	平野区	年	データ参照先
災害時避難所	42 箇所	R4.3月	危機管理室
福祉避難所・緊急入所施設	10 箇所	R4.3月	危機管理室
水害時避難ビル（市立小中学校等）	34 箇所	R4.3月	危機管理室
水害時避難ビル（市営住宅等）	124 箇所	R4.3月	危機管理室
防災リーダー数	622 人	R4.3月	平野区役所 安全安心まちづくり課
大阪重点犯罪（抜粋）等発生件数	824 件	R3	市民局
連合町会加入率	38.5 %	R3	平野区役所 安全安心まちづくり課
平野区の大阪市所管の未利用地面積	206,233 m ²	R3.8月	契約管財局

② みんなで支えあう福祉のまちづくり

項目	平野区	年	データ参照先
要介護認定者数	15,619 件	R3.8月	福祉局
在宅認知症高齢者数	3,319 件	R3.6月	要介護認定調査
障がい者手帳所持者数	17,974 件	R2	福祉局
高齢者虐待・障がい者虐待相談等受理件数	193 件	R2	福祉局
生活困窮者自立相談支援窓口相談件数	1,499 件	R2	福祉局

③ こどもが元気で育つまちづくり

項目	平野区	年	データ参照先
児童数（小学校数22校）	8,630 人	R2.5月	学校現況調査
生徒数（中学校数11校）	4,266 人	R2.5月	学校現況調査
こどもサポートネット支援対象者件数	297 件	R2	こども青少年局
児童虐待・DV相談件数	254 件	R2	こども青少年局